

菊池農業高等学校 平成28年度学校評価表

1 学校教育目標

「熊本の心（助け合い・励ましあい・志高く）」を基本理念として、「県立学校における児童生徒教育指導の重点」「人権教育取組の方向」を指針とし、本校綱領「向学創造の精神を培う」

「敬愛協同の美德を養う」「勤労剛健の気風を興す」の具現化を目指す。

(1) 目指す生徒象

「基本的な生活習慣が身に付いており、人に自分の夢を語ることができ、可能性に果敢に挑戦する意欲と自信に満ちた行動力を発揮し、社会で《生きぬく力》を持った菊農生」

「輝く個性と確かな力 息吹あふれる 菊池農高」

「育てよう 友達を思いやる心と優しさ 作ろう 私たちの笑顔と絆」

(2) スローガン

「メイク ヒストリー (MAKE HISTORY) 自分に挑戦！」

2 本年度の重点目標

生徒・教師・保護者の互いの信頼のもと、切磋琢磨する活動を通して、未来を創る気宇の精神に満ち溢れた学園づくり。

- (1) 確かな学力の育成（基礎学力向上と授業の検証・改善）
- (2) 豊かな心を育む生徒指導・生徒支援の充実（思いやりの心と規範意識の向上）
- (3) 進路目標の達成
- (4) 活発な自主活動の展開（自己PR強化）
- (5) 心身ともに健康で安全な教育活動の展開
- (6) 保護者の理解を得る積極的な教育活動の展開

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目指す生徒像実現のために学校目標の周知を図るとともに、教育活動の着実な実践による活性化を図る。	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が共通認識として実践する。 保護者、生徒全員に学校目標を認知させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議、研修等で常時啓発する。 生徒総会、育友会総会ホームページ広報誌等を通じて啓発を図る。 	C	教育目標、重点目標の周知については、ホームページの活用や昇降口掲示等で啓発の取組はできたが、認知度は若干の伸びに留まった。日頃の学習活動、学校行事等で、生徒への認知度を上げることが課題である。さらに保護者への認知を高めることが必要である。
		自信に満ちた行動力を発揮し、社会で生き抜く力を持った生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣を身に付けて、夢を語り可能性に向かって、果敢に挑戦する生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上を図る。 朝学習の定着を図る。 農業の専門性を高める教育の推進を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力向上への各学年での取組等、朝学習を活用し工夫されている。 また、各学科学習成果発表を行い専門性を高める教育に取り組み、課題解決能力を育むことができた。
	校長を中心とした指導体制のもと学校目標を実現する。	学校目標実現に向けた職員の意思統一と組織の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修の充実と各部の連携推進及び学科間の協力体制を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解に係る職員研修を充実させる(毎学期実施)。 学科・学年主任、各部主事等の融合を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する生徒や課題を抱える生徒が増加する中、早期に職員研修を実施できたことで生徒情報の共有ができた。 学科主任と主任主事を含めた、ケース会議等を実施し情報の共有化と対応について連携して取り組むことができた。
		災害時及び生徒の健康管理等における危機管理体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の指示系統や連絡体制のマニュアルを「熊本地震」を受けて再構築する 	<ul style="list-style-type: none"> 職員連絡網、保護者連絡システム、ホームページ活用等による連絡体制のマニュアルを再構築する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 携帯メールを活用した登録された「安全・安心メール」システムにより熊本地震時等における緊急の連絡や行事連絡など大きな効果が見られた。また、震災時のマニュアルも再検討し作成することができた。
	学校情報を分かりやすい内容で定期的に発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ掲載情報をタイムリーに更新する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページのシステムを職員に周知し、情報発信を各行事ごとに更新する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 各学科で授業の様子や行事等の情報の発信を行っているが、タイムリーに更新できていない場面もあり、今後の課題である。 	
学力向上	基礎学力の向上を図り、学習意欲を高めわかる授業を展開する。	生徒の学習意欲を高め、もっと知りたくなる授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が楽しく登校し「わかる・できる・もっと知りたくなる」を実感する授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価を実施する。 学習意識アンケートを実施し、生徒の学習意欲を把握し、授業展開に生かす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で授業評価アンケートを実施、その内容を分析し授業改善に努めている。 プロジェクト発表や意見発表、現場実習等の報告等さまざまな教育活動とおして、言語活動における苦手意識が改善されているが、苦手意識を持っている生徒は多く引き続き課題として取り組みたい。

		習熟度に合わせた授業を展開し、わかる喜びを感じる授業を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別に授業内容を組立て、「基礎学力」を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 欠点保持者及び希望する生徒等に対し、考査前学習会等で学びなおしを実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 考査前学習会は、数学と英語に重点を置き実施。「学び直し」としての効果はあったが、全体の底上げには更に検討が必要。 習熟度学習の効果は上がっているので取組の継続が必要。
教師の授業力の向上を図る。	生徒の興味関心を引き付ける授業の展開を行う。		<ul style="list-style-type: none"> 学科・教科別に研究授業（アクティブラーニングを重視した授業展開）による資質向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業週間を設け、統一したテーマを元に、各学科、教科ごとに研究授業を実施し授業改善に生かす。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業週間と併せて研究授業週間を設け実践を行ったが、統一したテーマを元には実施することができなかった。来年度の課題としたい。 アクティブラーニングについては、意識して積極的に授業に取り入れようとする教師も増え、授業改善に繋がっている。
			<ul style="list-style-type: none"> 授業の公開による教師の授業力及び探究心の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員相互の授業見学と授業評価を実施する。 オープンスクール等を行い、見学者等に率直な意見を求め、授業改善に生かす 	B	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業週間をとおして、各学科において、研究授業を兼ねた公開授業を実施した平日の日程で来校者が少なかったので来年度検討したい。 土曜日にオープンスクールを実施、中学生・本校保護者、約200名の来校があり、様々なご意見を頂くことができた。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育推進のため、進路指導力の向上に取り組む。	農業自営者育成を主としたキャリア教育を学年に応じて実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 寮教育、先進農家視察、現場実習等を通して職業意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育入寮、研修入寮、農業実習等による体験学習の充実を図る。 現場実習を通して職業感を育成し、進路意識の高揚を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学科の特性を生かしかつ各学年に応じた内容での実施がなされた。
		キャリア教育の充実に向けた職員の指導力向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修や農家・企業等の訪問を通じて進路指導力の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報及び企業訪問等による企業情報の共有化を学年会や研修の中で行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 震災の影響も有り、3年担任による企業訪問が例年よりも十分に実施ができていない。
	早期の進路目標設定とその達成に向けた進路指導に取り組む。	<p>生徒の進路意識を高めるための実態に即した取組みを行う。</p> <p>生徒や保護者の思いを十分に受け止めた進路指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 講演会、進路講話等の進路学習を通して、進路目標設定への意識付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> OBや外部講師による進路講話を実施するとともに、校外での進路相談会へも積極的に参加させる。 各学年毎に定期的に進路希望調査、個人面談等を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 外部招聘講師による講演会や進路講話は実施できた。校内ではキャリアサポーターによる進路講話も実施できた。進路希望調査のとりまとめが難しい。
			<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した進路指導を実施し、生徒の進路希望100%達成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPを活用し保護者・生徒に対して進路に関する情報提供を行う 面接指導のやり方を工夫し、3年時に全職員による模擬面接試験を実施し、より実践的な内容の指導を行う。 保護者による進路先訪問を実施する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 面接指導は例年通り協力していただき実施できた。本年度の3年進路は90%以上実現できた。しかし保護者による進路先である企業や学校の訪問が実施できなかった。HPを活用した進路情報の提供はできていない。

生徒指導	豊かな心を育む指導の実践に取り組む。	生徒会・農業クラブを中心とした自主的活動による活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒会・農業クラブを中心とした生徒の自主活動や部活動、ボランティア・委員会活動の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒企画による各種行事や委員会活動を通じた自治活動力の育成を図る。 ■ボランティア活動や部活動の活性化を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■各種行事については生徒会・農業クラブを中心とした活動が積極的にできた。 ■高校生リーダーキャンプ、マラソン大会ボランティア活動など積極的に参加した。 ■部活動は年間通した活動ができてきた。
		農業教育における動植物の育成管理を通じた豊かな心の醸成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ■同僚との協力及び動植物の飼養管理を通して責任感を育成するとともに他者や周囲に配慮することのできる心の醸成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■同僚と協力して作業をすることで責任と周囲への思いやりの心を育てる。 ■動植物との触れ合いを通して、命を大切にす豊かな心を育成する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■実習や授業を通して寒暖も関係なく協力して作業する姿があった。 ■実習当番や研修などで動植物の管理や世話をすることで命の大切さや責任感を育成する教育の実践ができた。
	規範意識を育てると共に安全教育の徹底に取り組む。	基本的な生活習慣の確立と規則やマナーを遵守する意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ■気持ち良い挨拶、制服の着こなし、時間を守る等、社会人となるための基礎基本を徹底指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■朝の登校指導や定期的な整容指導の徹底を図る。 ■整容面（服装・頭髪）について全体に周知し全職員で統一した指導を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■登校指導、整容検査は先生方の協力を得て細かく声かけ指導など徹底ができた。 ■整容面は普段の指導も少しずつ浸透してきたが、正しい服装の意味を理解させることが課題である。
		交通事故や犯罪等に遭わないために防犯意識の高揚を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ■交通ルール遵守や自転車盗難等の防犯をはじめとする安全教育指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■防犯対策として二重ロックや安全教育を実施する。 ■学校周辺の危険箇所マップを交通委員と連携して作成し事故防止に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■自転車通学許可については許可願やTSマーク加入等改善に取り組んだ。 ■危険箇所マップの作成を文化祭に向けて取り組み発表することができた。 ■原付通学生の違反や事故はあるが、SDカードによる交通違反発覚が前年度より減少した。
人権教育の推進	豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成に取り組む。	相手の立場や心情を理解することのできる生徒の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ■人権感覚を高めて、心豊かな生徒の育成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ■年7回のLHRをはじめ様々な授業を通して人権感覚を育む。 ■人権講話や人権講演、平和登校日など、機会を捉えて人権の大切さを伝える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■人権LHRで、部落差別をはじめ水俣病やハンセン病、北朝鮮拉致問題等の学習をし、人権感覚を培った。 ■平和登校日では、特攻隊について学習し若くして亡くなった兵士に思いをさせ、平和の尊さを学んだ。
		指導する職員の人権感覚を豊かにする研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ■毎学期に配慮を要する生徒等に関する研修を実施することで生徒に対する人権感覚を磨く。 	<ul style="list-style-type: none"> ■人権教育推進委員会を毎週行い、共通認識と共通実践を図る。 ■年間3回の生徒理解研修を実施し、全職員で課題を抱える生徒の状況を把握し、共通理解を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ■毎週行う人権推進委員会で、人権に関する議題だけでなく、各部署から気になる生徒等について話してもらい、共通認識を持てた。 ■生徒理解研修はもとより、人権推進委員会で全職員に周知すべき事案は、職員会議等で報告し、共通理解を図れた。

	命を大切に 心の育成に 取り組む。	動植物に関わることで命の大切さを意識し、いじめのない学校づくりに取り組む生徒を育てる。	■日常の学びの中で命の大切さを知り、自分や他者の命を大切にすることのできる生徒を育てる。	■命を育て、命を頂くことで生かされていることを実習等の授業で学ぶ。 ■人権委員会を中心に「いじめ撲滅宣言」の読み上げ、クラス掲示を行い、感謝の心と他者を認める心を意識させる。	B	■農業実習だけでなく、全授業を通して、いのちについて日頃から意識する機会を設けている。 ■全校集会で、人権委員の生徒に、各クラス作成の「人権壁新聞」の紹介をしてもらい、生徒中心の人権啓発活動にも取り組んだ。
いじめの防止等	命を大切に、いじめをなくす行動をする生徒の育成に取り組む。	命の大切さを理解し、命を大切にすることのできる生徒の育成に取り組む。	■日常の学びの中で命の大切さを知り、自分や他者の命を大切にすることのできる生徒を育てる	■性教育LHRをはじめ、日常の授業・実習で、命を育て、命を頂くことで生かされていることを学ぶ。	B	■アンケートにある生徒からの訴えに対して、いじめ防止対策委員会を中心に対策を講じた。ただ、これからも注意深くみていく必要のある生徒は継続的にいる。 ■集会やLHRなどでいじめ防止や人権に関しての話題について周知し、日常から敬愛の教育を行うことができた。
		いじめ防止に積極的に取り組むことのできる生徒を育成する。	■相手の立場を考え、命を大切に考えることができる生徒の育成を図る。	■LHR等で人権問題を取り上げ、いじめや差別をなくす生徒の育成と正しい言葉遣いの指導をする。	B	■人権委員長に全高生徒の前で「いじめ撲滅宣言」の読み上げをもらったことで生徒主体の活動であることを意識付けができた。 ■いじめ防止対策として一斉面談を計画したが、年度末になり担任等の負担が大きかったのが課題である。余裕がある時期に計画的に実施することにより、職員の負担が軽減されると思われる。
専門教育	地域と連携した農業教育の推進に取り組む。	地域と連携した農業教育の推進に取り組み、農業経営者を育成する。	就農教育の推進と地域に開かれた農場の展開。	■農場を地域に開かれた学校の拠点とし、生徒と共に農業の新しい技術や情報を発信していく。	B	■生徒の意見発表・プロジェクト発表や「菊農フェスタ」などをとおし、農業に関する技術や情報を積極的に発信できた。
		農業教育により自信と誇りを持たせ関連産業従事者を育成する。	■農場を生徒の学習発表の場と位置づけ、農業教育に対する自信と誇りを育む。	■学習成果を積極的に発表し、身につけた専門性を将来活かす進路指導を実践していく。	B	■クラス・学科・学年などで発表する機会を多く設け、日頃の学習成果を積極的に発表することができ、生徒は自信を深めた。
環境教育	環境保全活動や環境問題に積極的に取り組む。	学校版環境ISOに取り組むとともに農業を通して環境整備に意欲的に取り組む態度を育成する。	■環境にやさしい農業を実践し、環境保全や環境問題への関心を高め、意識的に取り組む態度を育てる。	■学校版ISOの認定校として校内外のクリーン活動を実施する。 ■地域を含めた花いっぱい運動を展開する。	C	■環境ISOの宣言項目については、周知徹底できなかったが、校舎内外の美化活動にはよく取り組めた。 ■農業クラブを中心に各学科で、花いっぱい運動を実施することができた。
		美しい学校づくりをテーマに環境美化活動に取り組む。	■環境美化活動を通して美しい環境の中で豊かな感性を育む。	■美化委員を中心に年5～6回程度、学校周辺の美化活動を行う。 ■ゴミの分別運動を実施。	B	■美化委員を中心に校舎内、学校周辺の美化活動に取り組むことができた。 ■これまでの取組により、ゴミの分別に関する意識を感じた。

保護者との連携	育友会との積極的な連携・協力に取り組む。	円滑な学校運営のために情報提供に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者へ学校行事や生徒の様子等の情報提供に努め、本校への理解と協力を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回の育友会会報作成等に協力し、菊農のPRに努める。 HP等を通じて育友会活動を紹介し学校行事の周知徹底に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> B 育友会会報「はなぶさ」を年4回発行し学校行事や育友会活動のPRに努めた。 HP等を活用した育友会活動の紹介や、安全・安心メールを使って行事の周知徹底に努めた。
		P T A活動のさらなる活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> P T A総会や学校行事への保護者の出席率向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 早目の情報提供で、保護者の日程が調整できるよう配慮する。 総会や各種委員会の欠席者については、生徒を通じて資料を配布し、情報の共有化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> C 各種行事の1ヶ月前には情報提供するよう努めたが、熊本地震の影響があり総会や保護者会の出席率は厳しかった。 今年、台風の影響でミニバレー大会を中止したが、保護者からクレームが多く寄せられ次年度に向け楽しい行事を構築していく必要性を感じた。

<h4>4 学校関係者評価</h4> <p>○生活の規律の面では、進路指導も含め職員の高い意識で指導されていると思うので、今後もお願いしたい。</p> <p>○学校行事等で何う機会が多いが、いつもきれいにしているため、さらに環境美化に努めていただき学習環境を整えてもらいたい。</p> <p>○寮教育は社会に出て大いに役立つものである。また就農にもつながっており雇用就農も含め多くの生徒が将来就農していくことは大変嬉しいことで、できるだけ多くの多くの生徒を受け入れられるようにしてもらいたい。</p> <p>○就職後の定着率が心配である。人間関係等コミュニケーション力を付けさせる指導を様々な場面でを行い、早期離職対策を行ってもらいたい。また、よりよい学校生活を送るためにも、スマートホン等に頼らず横（友人間）の繋がりを大事にする指導をお願いしたい。</p> <p>○学習活動、学校行事等、生徒全体の意欲を引き出すためにさらなる工夫を凝らして展開してもらいたい。</p> <p>○菊池農業高校にしかできない魅力をもっとPRし生徒募集等に工夫を凝らしてもらいたい。また、保護者、生徒の評価が年々良くなっておりさらに工夫して魅力ある学校づくりをしていただきたい。</p> <p>○人間教育では、「人の心の分かる、人のために行うことができる人づくりが大切」である。農業への夢を持たせ責任感ある生徒を育成していただきたい。</p>

<h4>5 総合評価</h4> <p>○学校評価アンケートの保護者回答率は昨年度を下回ったが、全体的に生徒と保護者ともに評価が向上したことは本年度の本校の取組みについて、多くの方に御支援と御理解をしていただいた結果であり、各方面からの協力や支援体制ができていると判断する。</p> <p>特に生徒たちの体育大会での企画や運営、菊農フェスタでの生き生きとした明るく積極的な姿から、日頃の活動を生徒・保護者にPRでき十分理解していただいた結果だと考える。また今年度新たな取り組みとしてオープンスクールを実施し、本校の教育活動を地域の方々に見ていただいた。しかし、適時のHP等での情報発信が必要である。</p> <p>○支援が必要な生徒も入学する中、生徒指導部・教育相談部を中心に、スクールカウンセラーや外部専門機関と連携しながら全職員一丸となつての取組み等、校内支援体制の確立に努めたことで、自信をつけ、本校に入学して良かったと楽しく学校へ通う生徒が増加している。</p> <p>○生徒の学力向上と進路保障の面からも、生徒情報共有の場を積極的に設定し、共通理解のもと指導に取り組んでいきたい。学習指導面では、まだまだ十分な学力向上に至っていないので「言語活動」を意識した授業を展開し、自分の考えや意見が積極的に言えるよう、進路実現につなげていきたい。</p> <p>○進路状況については、農業経営者を目指し進学後就農予定14名、即就農8名（雇用就農含む）となった。進学は、県立農業大学校へ12名進学、国立大学への進学者1名、4年制私立大学5名をはじめ40%が上級学校へ進学することとなった。就職では、2社目を受ける生徒もおり厳しい面もあったが、基本的な生活習慣の確立を含め、進路指導部を中心に進路相談、面接指導等で適切な指導を進めながら、最後まで進路開拓等の指導を継続した。今後も生徒の進路保障に力を入れていきたい。</p>
--

6 次年度への課題・改善方策

- 学力向上において、授業評価アンケートを基に日頃の授業の工夫と積み重ねが重要であり、「わかる授業」「もっと学びたくなる授業」の展開を更に心がけ確かな学力の育成を実施したい。考査前学習会等で「学びなおし」の指導も含め、「自信」と「誇り」を育成し、『生徒が主体的に学ぶ』授業の展開を全ての教科で実践し、社会を生き抜く力を育てる教育の実践に取り組んでいく。
- まず教師自身が一斉教育面談等で実態把握と生徒理解をし、農業のもつ教育力を教師一人ひとりが活かした「人の心の分かる人づくり」を実践し、いじめのない楽しい学校生活を送れるよう、生徒一人ひとりに向き合い、生徒に「命」を大切に作る心を育てる。
- 防災教育では、熊本地震での経験を踏まえ、今後も発生が予想される様々な災害から生徒の命を守り抜くため、今年度見直した地震発生時危機管理マニュアルを検証し、地域と連携した学校防災を推進する体制の整備を行う。
- 人権教育では、相手の立場や心情を理解できる生徒の育成を目指し、生徒一人ひとりの状況を全職員が共通理解して、何時でも何処でも指導・対応ができるよう研修を実施する。
- 本校の学習内容、行事・部活動等の生徒の生き生きとした学校生活の様子を、適時にホームページでの発信や、広報誌、クラスだより等を活用して広くPRし保護者や地域の理解を得るとともに、さらに連携を深め学校の活性化を図ることで生徒募集に繋げていく。
- 生徒の進路実現のために、農業先端技術の習得や日頃の学習指導、個別指導等を充実させ農業経営者の育成や国立大学・農業系大学等への進学者の増加等に取り組む。